



11.1 2022 賃金確定闘争 ブロック別集会の出席について

2022年11月1日(火)、邑楽町役場201会議室(邑楽町)にて、自治労群馬県本部により「2022 賃金確定闘争 ブロック別集会」が開催された。太田市職労からは小林委員長ほか2名が出席した。この集会は毎秋に行われる賃金確定闘争の勝利に向け、市町村自治体単組が各エリアブロック(東毛・中毛・北毛・西毛)ごとに集まり、本秋の賃金確定闘争に向けた進捗状況を報告するほか、各単組の課題や情報の共有を行い意見を交えることを目的として行われるもの。当日は太田市のほか、主催の自治労群馬県本部、桐生市・みどり市・邑楽町・大泉町の4単組が出席した。

冒頭、自治労群馬県本部佐藤委員長は「コロナ禍が依然と続く中、感染者数が増えつつある中で各単組の組合員には住民対応をしてもらっている。これらの対応は世間ではあたり

前のことと認識されているが、当たり前を当たり前にするのは難しい。当局にこのことを理解してもらい、少しでも処遇改善につなげていかなければならない。今日は情報共有を行うことで他単組の良いところを学ぶなど、実りのある会にしてほしい」とあいさつを行った。

単組報告・意見交換の場では、太田市が抱える労働条件の課題について情報共有を実施した。課題の解決に向けて各単組から意見を募ったことにより、労働条件を巡る各単組の動向を把握したほか、11月14日に提出を行った「2023 賃金確定闘争要求」を前に内容の精査を行った。各単組から得た情報の中でも特筆すべきものとして、「55歳以降の定期昇給の取り扱い」については県内の他単組との間で運用の差異がある事が明らかとなり、今後の課題を見出すことが出来た。

太田市からの報告	参加単組からの意見
長期の育児休業の代替職員の配置が不十分。太田市では産休の段階では当局は代替職員配置の検討をせず、産休後の育休になって初めて検討している状況。	・各職場から要求があれば産休時点から会計年度任用職員など代替職員が配置される。
建築主事への評価が不十分。県内でインセンティブを設けている事例はあるのか。	・建築主事手当を設けている単組あり(前橋・伊勢崎・桐生が運用中)。 ・今後、県本部も巻き込んで建築主事の評価に対する県統一見解を示したいと考えている。
55歳以降の職員は昇給抑制があるためモチベーション維持が難しくなっている。県内には55歳以降も定期昇給している単組もあると聞いているがどうか。	・55歳以降も定期昇給が実施されている。 桐生市・みどり市：2号昇給 邑楽町・大泉町：1号昇給 ・西毛地区もおおよそその単組で制度あり。



▲ブロック別集会の様子

11.19 連合群馬太田地協 第26回年次総会の出席について



▲来賓としてあいさつを行う清水市長

11月19日(土)、太田市勤労会館大ホール(太田市)にて「連合群馬太田地協 第26回年次総会」が開催された。太田市職労からは太田地協の執行部として相場顧問が出席したほか、代議員として山賀財政局長が出席。当日の議長を山木副執行委員長が務めた。第17期後半(2023)活動計画や予算をはじめとした提出議案は可決された。特に議案第3号「選挙戦必勝決議」では、来春に実施される「第20回統一地方選挙」に向けた決議を採択。連合群馬の掲げる「すべての県民が安心して暮らせる地域社会」のため、全推薦候補者の必勝に向けて連合群馬太田地協2万5千の総力を結集さ



▲予算案について説明を行う相場顧問(連合群馬太田地協事務局局長兼務)

せ、全力で戦い抜くことが宣言された。この決議が採択されたことを受け、来賓として太田市職労組織内議員であり「第20回統一地方選挙」連合群馬推薦候補予定者でもある八木田県議(自治労)のほか、同候補者であるあべ県議(JAM・UAゼンセン)、久保田市議(電機連合)、松浦市議(自動車総連)の4名が議員懇から出席し、各候補予定者が必勝に向けた決意表明を行った。総会の最後は森議長(日野労組)の掛け声のもと、出席者全員による団結ガンバローで締めくくられた。